

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000047		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームいわいずみ		
所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町尼額字下坪41-2		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成26年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0393000047-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0393000047-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25年 11月 28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川など自然に囲まれホームの中から四季の移り変わりを思い思いの場所から眺めることが出来、穏やかに過ごしています。入居者と職員のコミュニケーションを大切に散歩や買い物に出かけたり、自宅まで衣類等を持ち出かけたり知人宅にも出かけたりと一人ひとりのペースで生活ができています。地域の方々にも行事等参加頂き地域の行事にも声をかけて頂き顔見知りになり安心して生活ができています。また、ホーム周りの草取りや雪かき等定期的に行き、野菜や果物の差し入れもあり支えられて生活しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな山あいに囲まれ、せせらぎや小鳥の声や人声聞こえてくるような静かな環境にあって、人家の庭先には季節の草花が咲き乱れ散歩等での挨拶等もあり日常的に何気なく交流している地域に溶け込んだ事業所である。入居後に空き家となっている利用者の家の修繕や見回り等も地域住民に助けられるなど人情味あふれる地域の中で安心した生活ができています。日常的に連絡の困難な関東地方等遠方で生活している家族等とも、町内で入居者と一緒に行年会を行うなどコミュニケーションを大事にした関係の中から意向の把握に努めている。新任職員の育成が課題としているが、職員は利用者から教えてもらうことや気遣いに意欲を高めており、職員と利用者、そして長年培った地域との信頼関係を背景として、しっかりした介護計画により生活支援を実践している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付く所に掲示し、部署目標も全職員で話し合い決定し共有し実践に取り組んでいる。	前年度に約半年間の時間をかけて職員間で理念についての協議を積み重ねて改訂した。その協議の中から職員に理念の浸透が図られた。特に利用者の悲しみ等の感情への共感を示すことにより信頼関係の構築に取り組んでいる。	理念で重視している「共感」は、利用者が抱える多様な喪失感や不安と向き合うことから生じてくる。そこには明確な解決もなく職員の精神的負担も伴うが、丁寧に寄り添う誠意をもって信頼を築いていってほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し行事等参加しコミュニケーションを図り顔なじみになり、日常的に交流を深めている	山あいの小さな地区の住民として散歩での挨拶やお付き合い、地域や町主催の行事への参加等もあり、入所者の家が災害を受けた際には地域からボランティアで修繕していただくなど、日常的に地域に溶け込んだ生活となっている。	利用者個々の事情に地域住民が応えてくれる関係性は得難いものであり、そのような関係づくりを進めてきた事業所の姿勢は素晴らしい。利用者の喜びや感謝を地域に伝えながら、今後も関係性の継続に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報を年4回発行し地域や町内の施設等にも配布し回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換活発に出来ており取り入れている。ホームの活動や現状も報告できている	自治会長、消防団長、民生委員等の参加を得て運営についての意見や地域情報等を頂き話し合っている。推進協議会の進め方について、同一系列のグループホーム間で互いに参加・見学し改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に月1回参加し町の動向を聞いたりホームの推進会議に参加頂き協力関係を築いている。	地域ケア会議を中心に岩泉町内の動向を教えていただいたり、個別に相談協議するなど町役場とは不自由なく支援していただくなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ日ごろから全職員で話し合い意識をもち拘束をしない事があたりまえとなっている。	「身体拘束廃止ゼロを目指して」のステッカーを掲示し、また、虐待等を含めて法人全体の職員研修会に参加するなど防止に努めている。	人権意識の高揚やサービスの質の向上を更に図るためにも身体拘束や虐待に潜む心理的背景についても継続して研鑽することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや勉強会で学習して虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している入居者がおり、関係者と相談し制度についても再度確認し学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時説明に理解を頂き退居時には不安の無いよう他の期間と調整をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の誕生会・家族忘年会バーベキューなどの時日ごろ感じていることや、疑問に思っていることなど話してもらい運営に反映させている。	利用者と家族合同の「家族忘年会」には多くに参加者、関東方面等遠方からの参加者もあり、いろんな話を聴くことができている。家族間の関係の確認や家族と事業所とのコミュニケーションも図られるなど関係の強化に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やカンファレンス等で職員の意見交換をしている。	洗濯物の干場の整備や倉庫の整備など現場としての必要なものは事務局に要求し実現に結びつけているほか、職員の外部研修には勤務の都合もあるが積極的に受講させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談で意見を聞き、個人目標を設定し個々の意見を尊重をし、実践につなげている。物品や備品の補充もスムーズに行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の勉強会や個々に合わせた研修会へ参加し、学習できる機会を多く確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や町内の行事に他グループホームと一緒に参加し、交流を図り情報交換し実践に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査、面接時に意向を確認し入居後は日常生活の中でも会話や行動から要望、不安をくみ取るよう努力し家族と連絡を取り状況報告をし相談している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族と連絡を取り、状況報告をし要望を聞き入れ相談し合う関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要な状況の入居として短期入所に取り組んだ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ出来る事を見つけ、持っている力、知識を発揮してもらい感謝の言葉を伝い合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのつながりが途切れないように状況等を伝えたり、来所できない家族には電話で会話したり本人希望で自宅へ行って来られるように支援出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や息子さんの店に出かけたり、行きつけの店に買い物に出かけたり、自宅での環境に近い居住空間を作り、馴染みの物を居室に置いている。自宅にある地区行事に出かけ知人に会うことが出来ている。	空き家になった自宅に時々帰る方への支援や家族に会うために帰宅する人もいる。岩泉町内での行事等に参加すれば知人に会うことが多く、それが楽しみで行事参加することもあり、馴染み関係の継続が図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	椅子の置き場所に配慮し入居者同士が話しやすい場所を作り、食事の席など不満なく過ごせるよう考えて会話が成立し楽しく過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去しても見舞いに行ったり、次のサービスにつなげるように他事業所と連絡、調整を図り家族、病院との連携を取りパイプ役につとめた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話から本人の気持ちをくみ取り硬い物が病気の為食べられない入居者の為にケア会議を開き食べれるのも軟らかい物を特別メニューに入れて支援している。	センター方式により意向等を把握し、また、日常的には声掛けに対する反応等の表情や会話の中から意向等を把握しようと努め、また、職員を選んで話掛ける方もあり、職員間での連絡により補い意向の実現に結びつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用したり、ご家族や本人からの聞き取り、入居前のケアマネより情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の好みにより居室の配置を考えゆくり過ごせるようにし、掃除や食事の準備等本人の持っている力を発揮できるよう声がけしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に意向を確認し、本人の日常生活の中から訴えをくみ取り、毎月の業務会議の中で職員全員で検討している。	生活歴や個性等をセンター方式で把握し、各項目ごとに職員に説明と協議を繰り返し職員理解を深めてケアを行い、その結果を三か月毎に計画項目ごとに職員協議によるアセスメントを重ねて評価している。	ケアプランは利用者の意欲に着目しながら生活行動をきめ細かく支援する内容となっており、利用者の生活をイメージしやすいものとなっている。今後も利用者の生活意欲を重視したプラン作りを継続してもらいたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録・チェック表で情報共有し評価表も回覧し全職員で計画の見直しをし、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望意向に応じ身体の変化にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり外出することで声をかけられて、顔見知りになり楽しく元気に過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町外にはご家族の協力を頂いているが、かかりつけの病院には職員が同行し必要な受診ができており、緊急時も適切な医療が受けられている。	町内の総合病院に通院している方が多く職員同行支援し、受診結果は電話や手紙等で報告し齟齬の無いように努めている。健康面での対応について不安な場合には、同一系列事業所等の看護師に相談できる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師やほほえみの里の看護師にも相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ご家族を交え医師、看護師と相談し、状況が変わった時も面会時や電話で看護師と情報交換をし相談できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化が見られたときなど、その都度、ご家族に連絡をとり意向を確認し方向を確認している。	開設10年となり重度化が進み現在重度認定の方がお二人生活している。医療を必要とする終末期は対応困難であることを御家族には予め説明しているが、医療行為を必要としない範囲での可能な限りの介護をしようとの方針で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が緊急通報訓練や救急講習を受講し心肺蘇生法を学び、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い全職員が日頃から意識をもっている。近隣住民の方々からも協力も得られ緊急時に駆けつけ頂き協力体制ができている。	スプリンクラー設備、火災通報システム等の設備面を整備し、避難訓練には近隣世帯二人の協力を頂き、また、運営推進協議会では消防団長の指導を頂くなど防災に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴をくみ取りプライバシーを傷つけないよう声がけや会話にも配慮している。	職員は入居者に対して「利用者さん意識」を持って声掛け等に注意している。また、お手伝い等を頼む場合にはその方の過去の経験を把握したうえで「できること」を頼み、決して自尊心を傷つけないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選べるよう声がけしたり、家に帰りたいと言う時は、一緒に外に出たり、家族に電話をかけたい時には、ダイヤルし希望を叶えられるような声がけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分により掃除をしたり、読書や編み物、洋裁など無理なく過ごせるよう個人のペースに合わせ希望を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んだり、乳液やヘアクリーム等購入し身だしなみが出来、希望する入居者は美容院へ送迎もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事にあわせ節句など楽しく食事が出来るよう作り方など入居者様に尋ね一緒に工夫して作っている。	配膳の場所にそれぞれ「好きな猫や犬の写真」や「格言のある絵」等を下敷きにして楽しい演出をしている。皮むき等下拵えのできる方にはお願いし張り切っている。四季折々の季節料理やおやつも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の入居者の為栄養師に指導を受けバランスが取れた食事になっている。量・質を考え硬い物を噛めない人には刻み食や代替えの物を準備したり麺を好まない人の為にパンやごはんを出している。又、水分量記録を見て不足な時は好みの物ですすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に対応し歯間ブラシや舌ブラシ等準備し汚れが残っているときは、介助で口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄パターンを把握し時間の間隔を確かめ声をかけ誘導している。	リハビリパンツ使用者で誘導するとほとんど失禁状態という方もいたが声掛けと誘導で改善傾向にある。パット使用で外出に自信を持てるようになった方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し水分や食材で対応したり体操をし体を動かし予防にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決まっているが一人ひとりの体調や希望により楽しみながら入浴できるようタイミングや順番に配慮しながら支援している。	午後2時から4時の入浴(介助)でほとんどの方は一日おきに入浴している。入りたがらない人には入浴剤を工夫し、温泉に入ろうと誘っている。時にテレビ等の歌謡曲に合わせて鼻歌を歌う方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマに着替え照明にも気を配り、朝から寝たい方、昼寝をしたい方の対応も出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や説明書等確認できる所があり、個々に対応し便の様子を見て医師の指示により薬も調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暦をめくり、カーテン閉め野菜の下ごしらえや野菜を切ったり、食器洗いや個々の力に合わせて行っている。飲み物も熱い緑茶ブラックコーヒー甘いコーヒー冬は甘酒を希望したり好みに合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑仕事収穫、散歩、柿取り、栗拾いや本人の希望で買い物、ドライブや、お盆にご家族と墓参りに出かけたり、地域の方からイベントの誘いを受け出かけられている。	週2回の買物に同行外出する方、また、日和の良い日は事業所付近の散歩等、その途中で草花の採集、直ぐ近くの畑でさつまいも、じゃがいも、さやえんどう、夕顔等の世話と収穫と日常的に外出支援している。花見や紅葉狩り等の季節によるドライブも企画されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様は本人が所持しているが、ご家族希望で事務室で預かり外出時や買い物時使用出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望で電話をかけたりご家族からの電話を取り次いだり、難聴の方には音量調節の出来る電話を購入したことでスムーズに会話でき楽しむ事が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節に合った飾り物を飾り季節感を味わっている。外の様子も窓越しにソファを置き目で見て季節を感じている。	ホールは吹抜けの高い天井の大広間で、居間、食堂等の広い空間となっている。大きなテレビや炬燵、テーブルやソファが設置され、壁には写真や利用者さんの作品等も飾っており、明るく穏やかな雰囲気とともに生活しているという実感のある空間となっており居心地良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に全員座れるソファを置き玄関や、ホールに椅子を置き気の合った方と過ごせる場所を作り、読書の好きな入居者様は居室で本が読めるよう配置し穏やかに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し居室にテレビを置いたり自宅と同じ状態の椅子を配置し、ラジオをいつでも聞いたり、仏壇やぬいぐるみを置き、ベットの位置も本人の希望で模様替えでき好みの部屋になっている。	ベット、クローゼット洗面台があり、入居者はそれぞれテレビやテーブル等を持ち込み、壁面には家族の写真等を飾っている方もいる。中には位牌、遺影の前で拝んでいる方もおり、入居者の使いやすいうように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には名前をつけ食卓テーブルや下足にも本人が迷う事無く分かるよう名前を付けている。		